

# 様式 1 公表されるべき事項

## 国立大学法人上越教育大学の役員報酬・給与等について

### I 役員報酬等について

#### 1 役員報酬についての基本方針に関する事項

##### ① 平成23年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

役員に支給される報酬のうち、期末特別手当(賞与)については、国立大学法人評価委員会が行う業績評価の結果等を勘案し、その者の勤務業績及び貢献度を考慮の上、その額の100分の10の範囲内で増減することができることとしている。

##### ② 役員報酬基準の改定内容

法人の長

- ・6月期期末特別手当の支給月数を0.05月分引き下げ
- ・12月期期末特別手当の支給月数を0.05月分引き上げ

理事

- ・6月期期末特別手当の支給月数を0.05月分引き下げ
- ・12月期期末特別手当の支給月数を0.05月分引き上げ

理事(非常勤)

改定なし

監事

該当者なし

監事(非常勤)

改定なし

#### 2 役員報酬等の支給状況

| 役名           | 平成23年度年間報酬等の総額 |              |             |  | 就任・退任の状況 |    | 前職 |
|--------------|----------------|--------------|-------------|--|----------|----|----|
|              |                | 報酬(給与)       | 賞与          | その他(内容)  | 就任       | 退任 |    |
| 法人の長         | 千円<br>16,149   | 千円<br>11,868 | 千円<br>4,230 | 千円<br>51 (寒冷地手当)                                 |          |    |    |
| A理事          | 千円<br>11,923   | 千円<br>8,688  | 千円<br>3,096 | 千円<br>49 (通勤手当)<br>89 (寒冷地手当)                    |          |    |    |
| B理事          | 千円<br>12,353   | 千円<br>7,800  | 千円<br>3,093 | 千円<br>1,060 (地域手当)<br>348 (単身赴任手当)<br>51 (寒冷地手当) |          |    | ◇  |
| C理事<br>(非常勤) | 千円<br>900      | 千円<br>900    | 千円          | 千円   |          |    |    |

|              |           |           |    |    |  |       |   |
|--------------|-----------|-----------|----|----|--|-------|---|
| A監事<br>(非常勤) | 千円<br>900 | 千円<br>900 | 千円 | 千円 |  | 3月31日 | ※ |
| B監事<br>(非常勤) | 千円<br>900 | 千円<br>900 | 千円 | 千円 |  | 3月31日 |   |

注1: 総額、各内訳について千円未満切り捨てのため、総額と各内訳の合計額は必ずしも一致しない。

注2: 「地域手当」とは、就任直前に、民間の賃金水準が本法人より高い地域に在勤していた役員に支給しているものである。

注3: 前職欄の「◇」は、役員出向者(国家公務員退職手当法(昭和28年法律第182号)第8条第1項の規定に基づき、独立行政法人等の役員となるために退職し、かつ、引き続き同項に規定する独立行政法人等の役員として在職する者)であることを示し、「※」は、独立行政法人等の退職者であることを示す。

### 3 役員の退職手当の支給状況(平成23年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

| 区分          | 支給額(総額) | 法人での在職期間 |   | 退職年月日 | 業績勘案率 | 摘要    | 前職 |
|-------------|---------|----------|---|-------|-------|-------|----|
|             | 千円      | 年        | 月 |       |       |       |    |
| 法人の長        |         |          |   |       |       | 該当者なし |    |
| 理事          | 千円      | 年        | 月 |       |       | 該当者なし |    |
| 理事<br>(非常勤) | 千円      | 年        | 月 |       |       | 該当者なし |    |
| 監事<br>(非常勤) | 千円      | 年        | 月 |       |       | 該当者なし |    |

## II 職員給与について

### 1 職員給与についての基本方針に関する事項

#### ① 人件費管理の基本方針

職員数の適正化を図りつつ、国の同種の職員と同水準とする等、適正な人件費の管理に努めている。

#### ② 職員給与決定の基本方針

##### ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

国からの運営費交付金を踏まえ、国家公務員の給与水準等を考慮し決定することとしている。

##### イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

人材評価の結果を踏まえた勤務成績等を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

#### [能率、勤務成績が反映される給与の内容]

| 給与種目         | 制度の内容   |
|--------------|---|
| 俸給月額(昇格)     | 勤務成績が良好で昇格基準に達している場合、従事する職務に応じ、かつ総合的な能力の評価により上位の級に昇格させることができる。  |
| 俸給月額(昇給)     | 昇給区分C(4号俸)を標準として、勤務成績に応じてA(8号俸)からE(0号俸)の昇給区分で昇給させることができる。<br>注1: 特定職員の標準である昇給区分Cは3号俸。<br>注2: 昇給抑制年齢職員の標準である昇給区分Cは2号俸とし、A(4号俸)からE(0号俸)の昇給区分。 |
| 賞与:勤勉手当(査定分) | 基準日(6月1日及び12月1日)以前6箇月以内の期間における人材評価の結果等を踏まえた勤務成績に応じて、支給割合(成績率)を決定する。   |

#### ウ 平成23年度における給与制度の主な改正点

- ・6月期期末手当の支給月数を0.025月分引き下げ。
- ・12月期期末手当の支給月数を0.025月分引き上げ。
- ・勤勉手当の支給月数を0.025月分引き上げ。
- ・6月期期末特別手当の支給月数を0.05月分引き下げ。
- ・12月期期末特別手当の支給月数を0.05月分引き上げ。
- ・超過勤務手当において、月60時間の超過勤務時間の算定の基礎に日曜日又はこれに相当する日の勤務時間を含める。
- ・室長に対する級の格付け基準の変更に伴う管理職手当の改正。
- ・免許状更新講習業務手当の、業務の区分の細分化等による手当額の新設と増額。
- ・平成23年4月1日において43歳未満の職員のうち、調整の必要がある者のこれまで抑制してきた昇給を1号俸回復。

## 2 職員給与の支給状況

### ① 職種別支給状況

注1: 在外職員の区分については、在職者がいないため表を省略した。

注2: 人員が2人以下の区分及び職種については、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、人数以外は記載していない。

| 区分                   | 人員  | 平均年齢 | 平成23年度の年間給与額(平均) |        |    |       |
|----------------------|-----|------|------------------|--------|----|-------|
|                      |     |      | 総額               | うち所定内  |    | うち賞与  |
|                      |     |      |                  | うち通勤手当 |    |       |
| 常勤職員                 | 257 | 47.9 | 7,317            | 5,442  | 47 | 1,875 |
| 事務・技術                | 78  | 45.8 | 5,826            | 4,375  | 52 | 1,451 |
| 教育職種<br>(大学教員)       | 145 | 50.7 | 8,273            | 6,102  | 45 | 2,171 |
| 技能・労務職種              | 1   |      |                  |        |    |       |
| 教育職種<br>(附属義務教育学校教員) | 33  | 40.7 | 6,714            | 5,112  | 38 | 1,602 |

注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 「技能・労務職種」とは、自動車運転手である。

注3: 「教育職種(附属義務教育学校教員)」には、附属幼稚園教員を含む。

注4: 「医療職種(病院医師)」及び「医療職種(病院看護師)」の職種については、在職者がいないため欄を省略した。

|                |    |      |       |       |     |       |
|----------------|----|------|-------|-------|-----|-------|
| 任期付職員          | 11 | 46.8 | 6,762 | 5,059 | 83  | 1,703 |
| 教育職種<br>(大学教員) | 2  |      |       |       |     |       |
| 特命特任教員A        | 7  | 48.9 | 7,663 | 5,689 | 109 | 1,974 |
| 特命特任教員B        | 2  |      |       |       |     |       |

注1: 「特命特任教員A」とは、都道府県教育委員会等との人事交流教員である。

注2: 「特命特任教員B」とは、退職教員、外国人等である。

注3: 「事務・技術」、「医療職種(病院医師)」及び「医療職種(病院看護師)」の職種については、在職者がいないため欄を省略した。

|                  |   |  |  |  |  |  |
|------------------|---|--|--|--|--|--|
| 再任用職員            | 2 |  |  |  |  |  |
| 技能・労務職種          | 1 |  |  |  |  |  |
| その他医療職種<br>(看護師) | 1 |  |  |  |  |  |

注1: 「技能・労務職種」とは、自動車運転手である。

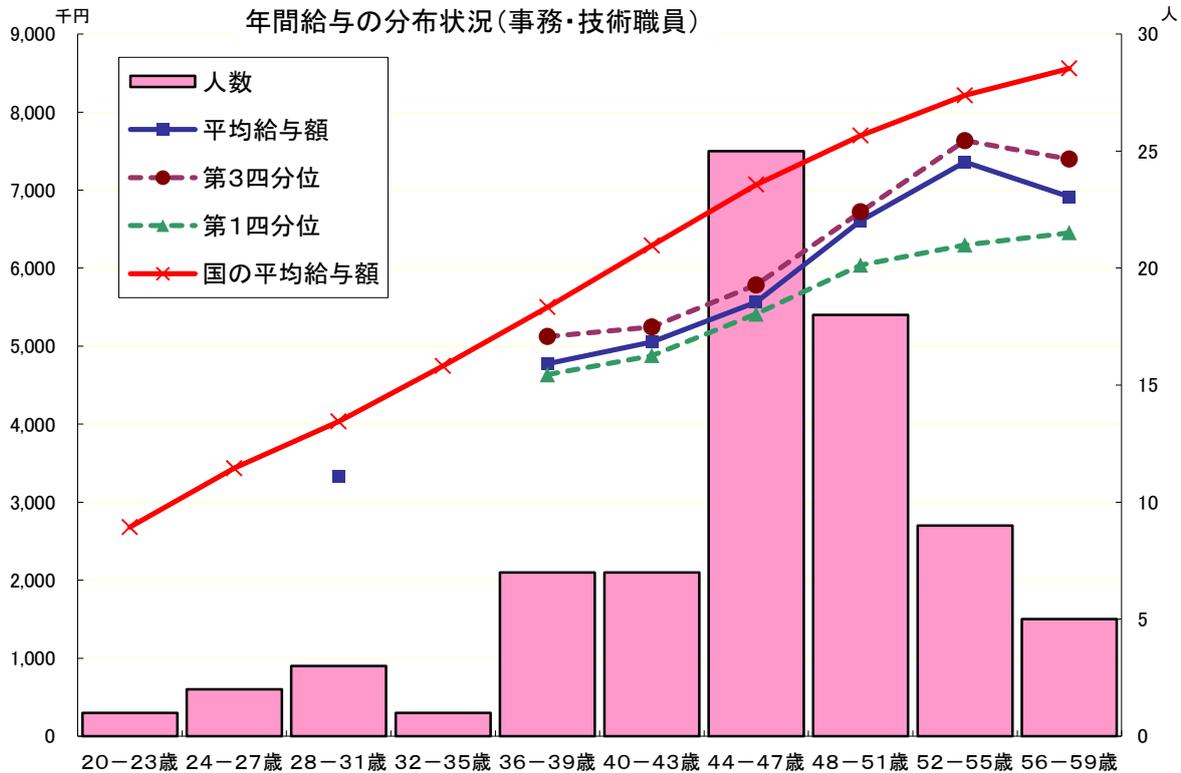
注2: 「事務・技術」、「教育職種(大学教員)」、「医療職種(病院医師)」及び「医療職種(病院看護師)」の職種については、在職者がいないため欄を省略した。

|                     |   |      |       |       |    |     |
|---------------------|---|------|-------|-------|----|-----|
| 非常勤職員               | 7 | 42.6 | 2,253 | 1,742 | 48 | 511 |
| 事務・技術               | 5 | 41.3 | 2,140 | 1,655 | 57 | 485 |
| 技能・労務職種             | 1 |      |       |       |    |     |
| その他医療職種<br>(医療技術職員) | 1 |      |       |       |    |     |

注1: 「技能・労務職種」とは、用務員である。

注2: 「教育職種(大学教員)」、「医療職種(病院医師)」及び「医療職種(病院看護師)」の職種については、在職者がいないため欄を省略した。

② 年間給与の分布状況(事務・技術職員／教育職員(大学教員))  
 [在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、⑤まで同じ。]



注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。

注2: 年齢「20～23歳」から「32～35歳」までの該当者は4人以下であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3分位については表示していない。

注3: 年齢「20～23歳」、「24～27歳」及び「32～35歳」の該当者は2人以下であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間平均給与額については表示していない。

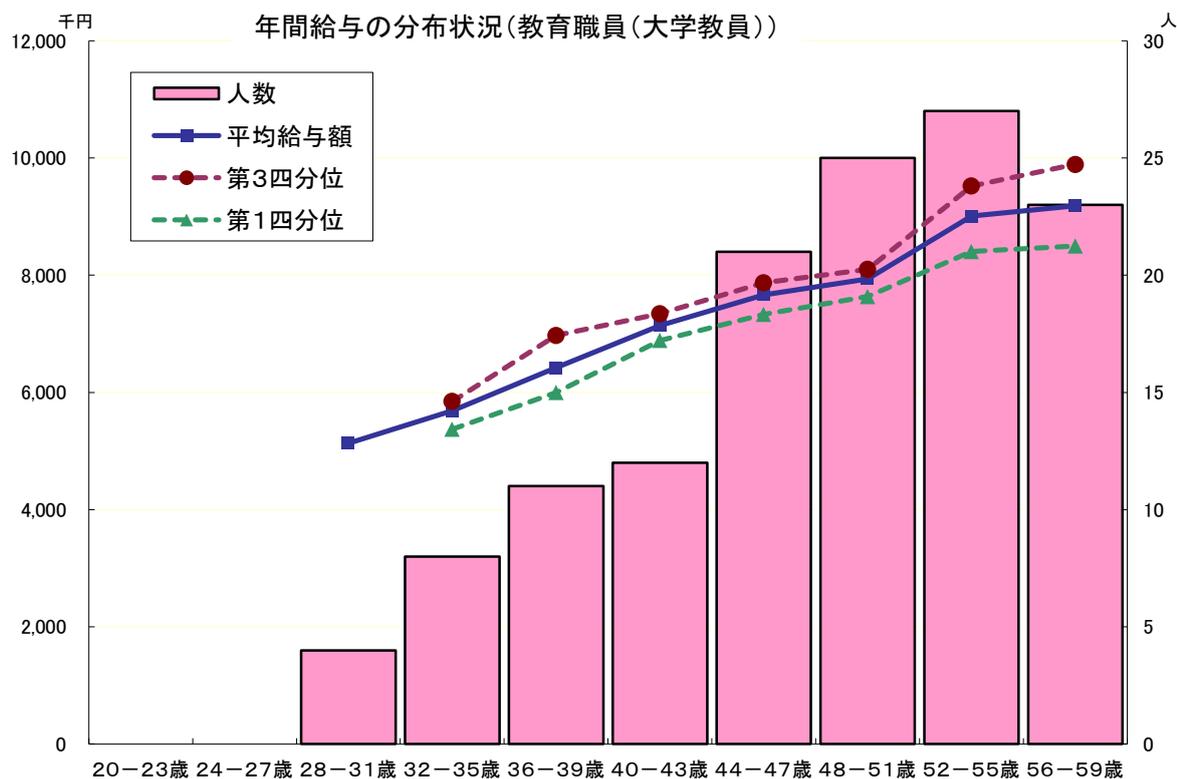
(事務・技術職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位   |       |       |
|-------------|----|------|-------|-------|-------|
|             |    |      | 第1分位  | 第3分位  |       |
|             | 人  | 歳    | 千円    | 千円    | 千円    |
| ・部長         | 1  | -    | -     | -     | -     |
| ・課長         | 9  | 53.5 | 7,633 | 8,100 | 8,248 |
| ・副課長        | 8  | 50.0 | 6,094 | 6,395 | 6,546 |
| ・主査         | 39 | 48.0 | 5,450 | 5,778 | 6,121 |
| ・主任         | 13 | 40.6 | 4,680 | 4,932 | 5,245 |
| ・スタッフ       | 8  | 29.3 | 2,996 | 3,382 | 3,557 |

注1: 部長の該当者は1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢及び年間平均給与額は表示していない。

注2: 本法人は係制でないため、係長相当職である「主査」を代表的職位として掲げた。

注3: 本法人は係制でないため、係員相当職である「スタッフ」を代表的職位として掲げた。



注1: 年齢「28～31歳」の該当者は4人以下であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3分位については表示していない。

(教育職員(大学教員))

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位   |        |       |
|-------------|----|------|-------|--------|-------|
|             |    |      | 第1分位  | 第3分位   |       |
|             | 人  | 歳    | 千円    | 千円     | 千円    |
| ・教授         | 68 | 56.6 | 8,554 | 9,226  | 9,704 |
| ・准教授        | 60 | 47.7 | 7,287 | 7,575  | 7,934 |
| ・講師         | 21 | 38.2 | 5,603 | 6,207  | 6,976 |
| ・助教         | 2  | -    | -     | -      | -     |
| ・副学長        | 3  | 60.5 | -     | 11,239 | -     |

注1: 助教の該当者は2人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢及び年間平均給与額は表示していない。

注2: 副学長の該当者は3人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3分位については表示していない。

③ 職級別在職状況等(平成24年4月1日現在)(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

| 区分                     | 計  | 1級          | 2級          | 3級            | 4級            | 5級          |
|------------------------|----|-------------|-------------|---------------|---------------|-------------|
| 標準的な職位                 |    | スタッフ        | 主任<br>スタッフ  | 主査<br>主任      | 副課長<br>主査     | 課長<br>副課長   |
| 人員<br>(割合)             | 78 | 4<br>(5.1%) | 5<br>(6.4%) | 38<br>(48.7%) | 21<br>(26.9%) | 3<br>(3.8%) |
| 年齢(最高<br>～最低)          |    | 29～23       | 45～29       | 49～37         | 58～47         | 54～51       |
| 所定内給<br>与年額(最<br>高～最低) |    | 2,315～2,194 | 3,219～2,549 | 4,527～3,493   | 4,924～4,081   | 6,019～5,801 |
| 年間給与<br>額(最高～<br>最低)   |    | 3,044～2,908 | 4,278～3,374 | 6,026～4,634   | 6,723～5,450   | 7,796～7,622 |

| 区分                     | 計 | 6級          | 7級          | 8級          | 9級          | 10級         |
|------------------------|---|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 標準的な職位                 |   | 課長          | 部長          | 事務局長<br>部長  | 事務局長        | 事務局長        |
| 人員<br>(割合)             |   | 6<br>(7.7%) | 1<br>(1.3%) | 0<br>(0.0%) | 0<br>(0.0%) | 0<br>(0.0%) |
| 年齢(最高<br>～最低)          |   | 58～49       |             |             |             |             |
| 所定内給<br>与年額(最<br>高～最低) |   | 7,282～5,681 |             |             |             |             |
| 年間給与<br>額(最高～<br>最低)   |   | 9,490～7,398 |             |             |             |             |

注：7級における該当者が1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(教育職員(大学教員 任期付以外))

| 区分                     | 計   | 1級          | 2級          | 3級            | 4級            | 5級            |
|------------------------|-----|-------------|-------------|---------------|---------------|---------------|
| 標準的な職位                 |     | 教務職員        | 助教<br>助手    | 講師            | 准教授           | 教授            |
| 人員<br>(割合)             | 145 | 0<br>(0.0%) | 0<br>(0.0%) | 21<br>(14.5%) | 53<br>(36.6%) | 71<br>(49.0%) |
| 年齢(最高<br>～最低)          |     |             |             | 51～30         | 64～34         | 64～45         |
| 所定内給<br>与年額(最<br>高～最低) |     |             |             | 5,634～3,725   | 6,397～4,380   | 8,597～5,776   |
| 年間給与<br>額(最高～<br>最低)   |     |             |             | 7,590～5,056   | 8,624～5,916   | 11,879～7,816  |

## (教育職員(大学教員 任期付))

| 区分                     | 計           | 1級          | 2級           | 3級          | 4級           | 5級          |
|------------------------|-------------|-------------|--------------|-------------|--------------|-------------|
| 標準的な職位                 |             | 教務職員        | 助教<br>助手     | 講師          | 准教授          | 教授          |
| 人員<br>(割合)             | 9<br>(0.0%) | 0<br>(0.0%) | 2<br>(22.2%) | 0<br>(0.0%) | 7<br>(77.8%) | 0<br>(0.0%) |
| 年齢(最高<br>～最低)          |             |             |              |             | 51～43        |             |
| 所定内給<br>与年額(最<br>高～最低) |             |             |              |             | 5,827～5,195  |             |
| 年間給与<br>額(最高～<br>最低)   |             |             |              |             | 7,828～7,147  |             |

注：2級における該当者が2人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

## ④ 賞与(平成23年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

## (事務・技術職員)

| 区分       |                     | 夏季(6月)         | 冬季(12月)        | 計              |
|----------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理<br>職員 | 一律支給分(期末相当)         | %<br>62.8      | %<br>66.9      | %<br>64.9      |
|          | 査定支給分(勤勉相当)<br>(平均) | %<br>37.2      | %<br>33.1      | %<br>35.1      |
|          | 最高～最低               | %<br>51.3～32.1 | %<br>40.8～29.7 | %<br>46.2～30.9 |
| 一般<br>職員 | 一律支給分(期末相当)         | %<br>64.7      | %<br>67.0      | %<br>65.9      |
|          | 査定支給分(勤勉相当)<br>(平均) | %<br>35.3      | %<br>33.0      | %<br>34.1      |
|          | 最高～最低               | %<br>41.4～32.6 | %<br>38.9～29.8 | %<br>38.8～31.3 |

## (教育職員(大学教員))

| 区分       |                     | 夏季(6月)         | 冬季(12月)        | 計              |
|----------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理<br>職員 | 一律支給分(期末相当)         | %<br>61.5      | %<br>64.0      | %<br>62.8      |
|          | 査定支給分(勤勉相当)<br>(平均) | %<br>38.5      | %<br>36.0      | %<br>37.2      |
|          | 最高～最低               | %<br>44.7～33.4 | %<br>48.0～30.9 | %<br>46.2～32.1 |
| 一般<br>職員 | 一律支給分(期末相当)         | %<br>64.7      | %<br>67.2      | %<br>66.0      |
|          | 査定支給分(勤勉相当)<br>(平均) | %<br>35.3      | %<br>32.8      | %<br>34.0      |
|          | 最高～最低               | %<br>41.4～32.8 | %<br>38.6～30.3 | %<br>39.1～31.5 |

⑤ 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

|                     |      |
|---------------------|------|
| 対国家公務員(行政職(一))      | 83.3 |
| 対他の国立大学法人等(事務・技術職員) | 96.9 |

(教育職員(大学教員))

|                        |      |
|------------------------|------|
| 対他の国立大学法人等(教育職員(大学教員)) | 91.8 |
|------------------------|------|

注: 当法人の年齢別人員構成をウェイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出。

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

| 項目                      | 内容   |
|-------------------------|--|
| 指数の状況                   | 対国家公務員 83.3  |
|                         | 参考<br>地域勘案 91.3<br>学歴勘案 84.6<br>地域・学歴勘案 91.5   |
| 国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由 | 【主務大臣の検証結果】<br>給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていきたい。   |
| 給与水準の適切性の検証             | 【国からの財政支出について】<br>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 75.3%<br>(国からの財政支出額 3,137,000千円、支出予算の総額 4,166,000千円:平成23年度予算)<br><br>【検証結果】<br>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合は50%を超えているが、「対国家公務員指数」は100未満であり、平成22年度決算における累積欠損額もないことから給与水準は適正であると考え。 |
| 講ずる措置                   | 今後も適正な給与水準を維持していく。   |

○教育職員(大学教員)と国家公務員との給与水準の比較指標 89.1

(注) 上記比較指標は、法人化前の国の教育職(一)と行政職(一)の年収比率を基礎に、平成23年度の教育職員(大学教員)と国の行政職(一)の年収比率を比較して算出した指数である。

○比較対象職員の状況

・教育職員(大学教員)

任期付職員以外に係る①表(職種別支給状況)の常勤職員欄の145人並びに任期付職員に係る①表(同)の教育職種(大学教員)欄の2人及び特命特任教員A欄の7人 計154人  
154人の平均年齢 50.4歳、平均年間給与額 8,203千円

### Ⅲ 総人件費について

| 区 分                 | 当年度<br>(平成23年度) | 前年度<br>(平成22年度) | 比較増△減   |         | 中期目標期間開始時(平成22年度)からの増△減 |         |
|---------------------|-----------------|-----------------|---------|---------|-------------------------|---------|
|                     | 千円              | 千円              | 千円      | (%)     | 千円                      | (%)     |
| 給与、報酬等支給総額<br>(A)   | 2,256,570       | 2,259,993       | △ 3,423 | (△ 0.2) | △ 3,423                 | (△ 0.2) |
| 退職手当支給額<br>(B)      | 182,750         | 100,046         | 82,704  | (82.7)  | 82,704                  | (82.7)  |
| 非常勤役職員等給与<br>(C)    | 152,011         | 133,080         | 18,931  | (14.2)  | 18,931                  | (14.2)  |
| 福利厚生費<br>(D)        | 307,919         | 290,488         | 17,431  | (6.0)   | 17,431                  | (6.0)   |
| 最広義人件費<br>(A+B+C+D) | 2,899,250       | 2,783,607       | 115,643 | (4.2)   | 115,643                 | (4.2)   |

注:「非常勤役職員等給与」においては、受託研究費その他競争的資金等により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用等を含んでいるため、財務諸表附属明細書の「(18)役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

#### 総人件費について参考となる事項

##### ○比較増△減について

- ① 「給与、報酬等支給総額(A)」の増減の要因 (対前年度比 △3,423千円)
  - ・給与法等の改正に準拠した報酬及び俸給月額額の減額
  - ・退職者等の不補充による支給人員の減
- ② 「退職手当支給額(B)」の増減の要因 (対前年度比 82,704千円)
  - ・支給人員の増
- ③ 「非常勤役職員等給与(C)」の増減の要因 (対前年度比 18,931千円)
  - ・競争的資金の獲得による雇用の増
  - ・業務量増加対応のための雇用の増
- ④ 「福利厚生費(D)」の増減の要因 (対前年度比 17,431千円)
  - ・非常勤職員増に伴う法定福利費の増
  - ・法定福利費の保険料率の増
  - ・法定外福利費の増

##### ○人件費削減の取組状況

- ① 中期計画において『「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間に於いて、△5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。』としており、平成23年度年度計画において『総人件費改革の実行計画を踏まえ、平成17年度人件費予算相当額に比して、5%以上の人件費削減を図る。』こととしている。

- ② 進捗状況は、下記の「総人件費改革の取組状況」を参照。

##### 【主務大臣の検証結果】

平成22年度までの5年間で5%以上削減を達成し、平成23年度も人件費改革を継続しており問題ないとする。

#### 総人件費改革の取組状況

| 年 度                | 基準年度<br>(平成17<br>年度) | 平成18<br>年度 | 平成19<br>年度 | 平成20<br>年度 | 平成21<br>年度 | 平成22<br>年度 | 平成23<br>年度 |
|--------------------|----------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 給与、報酬等支給総額<br>(千円) | 2,703,237            | 2,355,380  | 2,280,534  | 2,283,576  | 2,219,307  | 2,259,993  | 2,256,570  |
| 人件費削減率<br>(%)      |                      | △ 12.9     | △ 15.6     | △ 15.5     | △ 17.9     | △ 16.4     | △ 16.5     |
| 人件費削減率(補正值)<br>(%) |                      | △ 12.9     | △ 16.3     | △ 16.2     | △ 16.2     | △ 13.2     | △ 13.1     |

注1:基準年度(平成17年度)の給与、報酬等支給総額は、法人移行時の人件費予算相当額を基礎に算出した平成17年度人件費予算相当額である。

注2:「人件費削減率(補正值)」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率であり、平成18年、平成19年、平成20年、平成21年、平成22年、平成23年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ0%、0.7%、0%、▲2.4%、▲1.5%、▲0.23%である。

#### IV 法人が必要と認める事項

○国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律(平成24年法律第2号)に基づく国家公務員の給与の見直しに関連して、以下のとおり給与減額措置を講ずることとした。

- ・役員については、平成24年7月から実施。
- ・職員については、平成24年7月から実施。